令和6年度保育園における自己評価

評価項目	評価内容	課題
保育目標	・一人ひとりの発達を捉えて育ちを支え、保育を実践することで、豊かな心と体を育むことができた。 ・年齢や発達に応じてその時育てたい事また見通しをもって様々な体験できる環境を整え、安心して園生活が送れるよう努めた。	・保育士間で共有する課題について取り組める余裕のある保育を目指していく。
保育内容	・子どもたちの現状を踏まえ、物的・人的環境を整え柔軟に対応することで、より子どもたちが楽しめる活動へとつなげることができた。 ・一人ひとりの思いに寄り添い特性や個性を受け止め、遊びの充実を図ることができた。	・5領域・資質能力・10の姿など様々な視点での保育の振り返りや評価に努めていく。
保育環境	・自ら遊びたくなるような環境作りについて、職員間でコミュニケーションをとって工夫し、子どもたちが満足して遊ぶことができた。 ・園児の登降園管理や保護者との連絡に関するシステムのICT化を導入した。	・子どもの実態を捉え見通した環境づくりに努めていく。 ・保育記録などスムーズにICT化出来るように努める。
食　　育	・菜園活動をすることで、子どもたちが自分で育てた食材を大切にし成長していく過程も興味が持てた。 ・偏食の子の対応を共通理解し、子どもが楽しく食べれる工夫に努めた。	・継続して様々な野菜を育てていく。 ・アレルギー対応について、共通理解していく。
健康管理	・保護者との連携をとり日常的に視診を行うことで体調の変化に早く気づき対応することができた。 ・登園時の受入や日誌等で体調を確認し、検温したり早めに休めさせたり食事の調節をした。	・コロナ禍に比べ感染症対策の意識が低下している。
人権保育	・性的虐待について職員間で話し合い、着替えなどの場を分けたり、大切にされる部分について注意している。 ・子どもの行動や言動を汲み取り、気持ちを尊重しながら関わることを意識していくことができた。	・人権を守り切れるよう努めていく

安全対策	・業者による年2回の遊具点検、職員による遊具点検を実施することで事故防止に努めた。 ・避難訓練・交通安全を毎回行い、危険な場面での迅速な行動ができるようになっている。	・周りの環境を把握し危険予測をし、対策していく
苦情対応	・苦情・解決があった時は、職員で共通理解し対応したり保育の見直しを行い、信頼回復に努め安心して過ごせるようにした。	・苦情として通報される前に主任や園長に相談し対応する
保護者支援	・送迎時や個人懇談を通して、日々の困り感や不安に思っていることを伝え合い、問題解決に努めた。 ・掲示板で子どもの様子を伝えたことで、子どもの成長や楽しみなど共有することができた。	・行事・ドキュメンテーションの掲示の充実を図り工夫した。 ・発達支援など難しい場面での対応は職員で共通理解し、他の機関からのアドバイスを参考にし取り組んでいく。
研修計画	・ドキュメンテーションやビデオ研修を行い、他のクラスとの意見交流ができ参考になった。 ・日々の保育実践を振り返ることで、子どもにとってどんな環境や援助が良いのか考えることができた。	・全ての職員が周知できるようにする。 ・時間に限りがあるが学びの場となるよう時間を有意義に使い新たに保育に取り入れていく。